

令和元年 8 月 1 日

越谷保育専門学校
校長 山崎芙美夫

令和元年度第1回教育課程編成委員会報告の公表について

教育課程編成委員会による本校の「令和元年度第1回教育課程編成委員会報告」を公表します。

1 委員名簿

委員長:山崎芙美夫委員 副委員長:美入昌男委員

(1) 外部委員

池田 祥子	社会福祉法人杉の子保育会理事
石田 高幸	学校法人石田学園理事長 社会福祉法人わせだ会わせだっこ中央保育園長
植竹 清文	学校法人植竹学園認定こども園わかばの森園長
岡 美那子	社会福祉法人 まあれ愛恵会 さいたまたいよう保育園長
曾野麻紀	十文字学園女子大学 人間生活学部 幼児教育学科 准教授

(五十音順)

(2) 学校側委員

山崎芙美夫	学校法人ワタナベ学園理事長兼越谷保育専門学校長
美入 昌男	越谷保育専門学校副校長兼学科長
古塩 秀明	同 事務長
会田 秀樹	同 教務部学科主任
東海林 孝	同 教務部学科主任
渋谷るり子	同 教務部学科主任
小林 恵二	同 事務部参事
佐々木舞子	同 教務部

2 教育課程編成委員会開催状況

日時:令和元年6月19日(水)午前11時15分~12時00分

会場:越谷保育専門学校 201 教室

参加委員:上記外部委員5名、学校側委員8名

3 委員会次第

開会

(1)開会

(2)校長挨拶

(3)委員長選出

(4)協議

ア 教育課程編成委員会の進め方の説明

イ 令和元年度教育課程編成方針及び特色の説明

ウ 授業内容等の工夫及び改善に向けて

エ その他

(5)その他

ア 次回の開催予定

イ その他

閉会

4 第1回委員会議事要録

別紙のとおり

別紙

令和元年度越谷保育専門学校 第1回教育課程編成委員会議事要録

令和元年 6 月 19 日

- 1 委員の紹介 省略
- 2 校長挨拶 省略
- 3 議長選出 山崎校長
- 4 協議事項

- (1) 令和元年度教育課程編成実施及び特色の説明について
- (2) 授業内容等の工夫及び改善に向けて

外部委員からの提言と質問事項等

(1) 令和元年度教育課程実施及び特色の説明について

(学校) 本校教務部学科主任より、令和元年度教育課程実施及び特色の説明について次のような経過および説明があった。

ア 前回の委員会でも報告済であるが、昨年度は教育職員免許法施行規則の改正及び、児童福祉法の改正による指定保育士養成施設設置基準の変更が同時に行われ、平成 31 年 4 月 1 日より教育課程は変更となった。

イ 幼稚園教諭免許状に関する部分では、指定申請書を文科省に提出後、何度か修正や指摘事項の指導があった。主な指摘事項は、シラバスの修正と課程名に関する部分であった。教科名や担当教員の審査では問題はなかった。シラバスの指摘事項は、主に教職コアカリキュラムの内容に沿った授業と分かるように記載するようというもので、かなり細かく指導があった。文科省より、平成 31 年 1 月 29 日付で再指定を受けている。

ウ 保育士資格に関する部分では、平成 30 年 9 月 27 日に承認申請書を県の少子政策課に提出。提出後に教授内容の一部修正はあったが、教科名や単位に関する部分での指摘事項はなかった。

なお、平成 31 年 3 月 26 日に承認を受けた。これらの承認を受け、県学事課へも学則変更を済ませた。

(2) 教育課程の変更について、教科目概要に沿って、説明があった。

ア 本校は保育士資格及び幼稚園教諭免許状の取得に特化した学校である。法律で告示された科目に沿って今回も改正している。

イ それぞれの科目の開講時期について、実習体験での学びや 9 月の教育実習も踏まえて教材研究の講義を開講出来るよう配慮した。

ウ 今回の改定では、領域および保育内容の指導法に関する科目に変更する必要があったが、施行規則附則 7 項により、暫定的に教科に関する科目で今回申請をしている。

この部分は指定保育士の保育内容の理解と方法にあたる部分でもある。コアカリキュラムや、厚労省のシラバスを再度見直し、他校の教育課程の編成を参考にしながら、2022年4月に変更できるよう、学校では検討していく予定である。

(3) 授業内容等の改善・工夫に向けて

(委員) ピアノの授業は個人レッスンであるか。

(学校) 90分の授業の中で7名程の学生に対し、教員1名が配属されている。巡回しながら、個人指導を受ける時間がある。本校は7割近くが初心者である。課題曲に沿って練習している。全体で行う発表会も授業内に2回設けている。1年生は個別レッスンが中心の授業であり、2年生は実習を経験しているため、弾ける曲のレパートリーも増えている。そのため、保育者役と子ども役に分かれたロールプレーも取り入れて行っている。

(委員) 図工と選択体育の授業は、実践的で現場ですぐ使えるものであり良いと思う。子ども達と同じ目線で学生の頃から楽しむという姿勢が素敵だと思った。得意科目でない学生もいたとは思いますが、主体的に授業に参加している姿が好印象であった。

(委員) 欠席しがちな学生に学校から連絡を入れているという点は、学生募集に繋がるのではないかと思います。どのように学校が学生に関わっているかという姿勢を、高校サイドに知って頂くということも大切ではないかと思った。

(委員) 選択体育の授業は、数年前の学生と比べて、たくましい男子が増えたように感じた。パソコンの授業は、もう少し、少人数で行えれば良いのではと思った。エクセル等の操作を覚え、授業の経験を活かし現場でも活躍して頂きたい。

(委員) ピアノは継続していないと身に付かない。団体の中で学んでいると、差が出てしまうので個人レッスンがあると良い。パソコンは現場でも日誌や書類入力で活用することが多い。自分のパソコンを1台持ち込んで授業を楽しみながら行うような時間があっても良いと感じた。

(委員) パソコンは到達度もあると思うため、得意な学生が先生役をする等、学生主体でアクティブラーニングを取り入れていくとどうか。

(委員) 学校で買えるソフトは安いので、学生に取り入れていくのはどうか

(委員) ピアノの教育が充実していた前任校ではあったが、7～8割がピアノ初心者の学生であった。ひと昔前は、保育を志望している学生はピアノを多少なりとも経験している方が多かった。現場に結び付けて、いかに音楽を提供できるか？というところが、難しい。ピアノを使って現場で何が出来るかというところを工夫されているように感じた。学生は真面目で意欲があるように感じた。保育をやりたい学生が、いつでもいるということが嬉しい。「保育者になりたい」という気持ちに応えられる授業ということで、先生方は熱心なように感じた。

(委員) 2つの免許・資格を同時に取ることが、本校の売りだと言っているが、人間というのはどこかで事故が起こったり、予定が狂ったりするものである。目標に掲げられていても、最後の最後に単位が取れなかった際、仮に一つでも資格が取得出来る場合は、その一つだけでも取得出来れば良いと思う。本人がそのことに同意して卒業出来るような流れもあれば、救われる学生もいるのではないか。将来的に、そういうことも視野に入れて頂ければと感じた。

(委員) 落とした単位だけ、学生は次年度受講するようなことはあるのか。

その際、授業料は単位の分だけ、支払えば良いのか。

(学校) 実際、そこまで該当者はいない(一人、二人であるのが現状)

そのため、1単位のみの授業料という形は、現在設けていない。